

「ひらほくに新聞」で検索!  
★ホームページ ひらほくにランド★  
http://www.hirahoku.com/  
☆バックナンバー含め ひらほくに新聞」を  
閲覧・ダウンロード可能です!

発行所 読売センター平塚北部(ひらほくに) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

# 夢だけが 壊せなかった 大震災



東日本大震災5年。あの日の記憶、風化させないために。宮城県女川町の中学生が東日本大震災の直後に詠んだ俳句が、新年度から中学校で使われる光村図書出版(東京)の国語教科書に採用されることになった。大津波で家族や住まいを失いながらも、前を向いて歩き出そうとする心情などがつづられ、当時の生徒らは「5年前の私たちを支えてくれた言葉の力を、今の子供たちにも感じてほしい」と期待を込めている。(読売新聞1月26日付夕刊より)

教科書に掲載されるのは、町立女川第一中(現・女川中)の生徒たちが2011年に詠んだ俳句。国際宇宙ステーション「きぼう」に子供たちのメッセージを送る企画を進めていた一般財団法人「日本宇宙フォーラム」からの提案で全校生徒が当時の心情をつづった。

当時、国語教諭として指導に当たった佐藤敏郎さん(52)は、生徒が震災について言葉にすることへの不安から、「無理して詠まなくていい」と伝えていた。ところが、みな一心不乱に字数を指折り数え、境遇や家族への思いなどを俳句にまとめたという。佐藤さんは、「生徒たちは俳句にすることで自分と向き合い、前に進めるようになった。言葉の力を実感した」と振り返る。

みまがずれば  
がれきのよに  
こいのぼり

当時3年生で、津波で父を亡くした新田周子さん(19)の句も採用された。

みてない  
数学はかたに  
負けません

一時は学校に行くのもためらうほど落ち込んだが、自分を奮い立たせようという思いを込めた。その新田さんは現在、役者を目指して東京の大学で演劇を学んで言葉の大切さを感じているといい、「悲観せずに前を向いた当時の思いを今の中学生たちにも感じてもらえたらうれしい」と話す。

逢いたくて

でも会えなくて

逢いたくて

戻ってこい

秋刀魚の背中に

乗ってこい

見たことない

女川町を

受けとめる

白い地に

これから絵の具を

ぬっていく

シャボン玉

大空とんだ

あの人たちと

教科書では、同フォーラムでこの企画を担当した山中勉さん(57)が俳句づくりの経緯を解説している。山中さんは「こんな素晴らしい俳句を作った中学生がいることを知ってほしい」と期待を寄せる。(おわり)

# 菩提心

愛読月刊誌「致知」3月号の特集「願いに生きる」、鎌倉円覚寺・横田南嶺管長の特別講話より、

菩提心という言葉がある。自分が悟りの境地に行く前に、まず人々を先に渡すという仏道に生きる者の誓願を説いた言葉である。略「衆生無辺誓願度」とは平たく言うと「生きとし生けるものが皆幸せでありますように」という願い。

「婦人とは五、六年前、円覚寺の坐禅会に参加してくださったのが縁でした。日帰りの会ならともかく、泊まり込みの坐禅会となるとなかなか修行も厳しく、女性の参加は珍しいので何かご事情でもあるのかと思ひ、ある時お話を伺ったのです。

「婦人がおっしゃるには、あるスポーツの選手だった息子さん(57)が大きな大会で事故を起こして首の骨を折りました。首から下がほとんど動かなくなりました。絶望した息さんは、電動車椅子で病院の屋上まで上がり、飛び降り自殺を図ろうとしたけれども、体が思うように動かさず思い止まったのだと。

しかし、お話を聞いていて驚きました。その息子さんはそこから大学に復帰し、さらに一人暮らしを始めたというのです。

「婦人は「私はあの子が転んでも絶対に起こしてあげないんです」とおっしゃいました。体が不自由な子が転べば、すぐにでも手を差し伸べたいのが親というものではないでしょうか。しかし、ご婦人は自分が先に亡くなつた時、息さんが一人で生きていかなければいけないことを分かっておられたのです。

息さんにもその思いが伝わったのか、「自分は母のために生きるんだ。自分が暗くなれば、お母さんがいつまでも辛い思いをしないで済む。だから、頑張って生きるんだ」。そう言っていたそうです。その言葉のとおり、彼は一所懸命勉強して運転免許を取得し、いま地方公務員として立派に自立しておられます。

「婦人は私にこう言われました。「管長さん、私はいろいろ苦しんで悲しんで、泣くだけ泣きました。でも私が子供にできることはたった一つ。一日一日を明るく生きること。それだけです。もし私が辛い顔をしていたら、息子は母が悲しむのは自分のせいだと自分を責めてしまう。だからこれからも明るく生きていくの」。もし、お二人が自分のことばかりを考えていたら心は折れていたかもしれませぬ。しかし、息さんは母のために生きよう、ご婦人は息さんに辛い思いをさせたくないため明るく生きよう、それぞれに思いを貫いて生きておられます。

人間というものは、何か人のために尽くすことによつて、大いなる力を得ていくものなのでしょう。私は菩提心の発現ともいえる、この母子の姿からそのことを教わる思いでした。

「華嚴経」にも、次のような言葉があります。虚空世界尽き衆生及び業と煩惱と尽くるに至るまで、是の如く一切尽くること無き時には、我が願は究竟して恒に尽くること無し

この願いは自分一代で終わるものではありません。願いが永遠に生き続け、私たちはその願いの中に生き続けるのであります。そんな大層なことを願っても無理と思われ人がおられるかもしれませんが、しかし、雨乞いの話を存じでしょうか。ある村に、その人が祈れば必ず雨が降るといふ雨乞いの達人がいました。どうしてかと達人に聞いたところ、「秘訣はただ一つ。雨が降るまで祈るのだ。途中でやめるからいけない。雨は必ず降る」と答えたのです。仏の願いもそれと同じです。

皆さんもどうか、この世の中を見て菩提心を起こしていただき、「衆生無辺誓願度」の願いにお互いに生きてまいりたい。そう強く願うものであります。(おわり)

2013年、ロケット開発の植松努氏講演会を主催された縁で繋がった、神奈川県公立中学校現役校長の中野敏治先生。文学活動では、1986年より続く、やまびこ会（全国教育交流会）の代表として季刊誌等で全国の教育関係者と情報交換も熱心に行い、個人通信「かけはし」を毎月発行されています。

本紙昨年8月号では、著書の「学校で生まれた」コロの架け橋「を有難くご紹介させていただきます。

この度、卒業シーズンにあたり、中野先生が2012年に卒業生に伝えたとても深いメッセージをご紹介します。一人でも多くの子どもたちに、そして親御さんに味わっていただきたい素晴らしい内容です。ぜひどうぞ。

## 単立ちゆくあなたへ

### 〜私からの

### 最後のメッセージ

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんは一年間しか一緒に生活することができませんでしたが、夏休みに行った面接や全校集会などでいろいろなメッセージをみなさんに送ってきました。

全校集会では「世界中の人が幸せになる方法」を考え、「恩送り」という言葉や「ペイフォワード」という映画を紹介しましたね。また、「できないからやらないんじゃない、できないからこそやるんだよ」というメッセージと共に

「シーモ」という方が歌っている「コンティニュー」という曲も聴いてもらいましたね。三重県に住んでいる「中村文昭」さんの人生を紹介し、人間どうにでも変われるということも話しましたね。覚えていますか？

いろいろなメッセージをみなさんに送ってきましたが、私から卒業生のみなさんへ送るメッセージは今日が最後となります。

今、みなさんが手にした卒業証書。その卒業証書はA4判の大きさの紙です。でも、その一枚の紙の中にたくさんものが詰め込まれています。今、手にしている自分の卒業証書をそつと開いて、見てください。

最初に、「卒業証書」と書かれています。この証書は中学校を卒業したという証しなのです。

次に、自分の名前が書かれていますね。世界であなただけの卒業証書なのです。だからこそ、ここに、しっかりとあなたの名前が書かれています。その名前をじっくりと見てください。その名前を中学校生活で何度呼ばれてきたでしょうか。

卒業証書授与の時、学級担任の先生がみなさんの名前をしっかりと呼びました。みなさんはもう卒業です。学級担任の先生が中学生のみなさんの名前を呼ぶのは今日が最後です。もう中学生としてのみなさんの名前を呼ぶことはできないのです。

次には、あなたの誕生日が書かれています。ここに書かれてある日に、あなたは生まれたのです。そして今日まで生きてきました。いろいろなことがあったと思います。でも、みなさんはどんなことも乗り越え、今日、義務教育を終えることができました。

ここに書かれてある日、その日はどんな日だったのでしょうか。天気はどうだったのでしょうか。寒かったでしょうか。暖かかったでしょうか。どんな日であっても、家族や親せきの人たちはあなたが生まれたことをどれほど喜んでくれたことでしょう。あなたの命が生まれた日なのです。

今日までのことを振り返ってみてください。どれほどの方に、どれほどのことをしてもらってきたでしょうか。

夜泣きをして寝付かないとき、ずつと寝ずにあやしてくれたのは誰ですか。朝、なかなか起きられない時、大きな声で起こしてくれたのは誰ですか。

入学式の時、みんなと同じように制服や通学バックを用意してくれたのは誰ですか。風邪やインフルエンザで熱が出た時、心配してくれたのは誰ですか。忘れ物をしたとき、そつと学校へ届けてくれたのは誰ですか。部活動の大会や休日練習の日、お弁当を作ってくれたのは誰ですか。

あなたの命が生まれた日から、たくさんの方々があなたを見守っていてくれました。あなたは、どれほどのことをしてもらったでしょうか。そして、どれだけのことを返すことができたでしょうか。

あなたにとって、一番大切な人は、いちばん身近にいる卒業証書の真ん中には、みなさんが中学校の課程を修了し、卒業したということが大きく書かれています。そしてその日は、平成〇〇年〇月〇日、今日です。

人生の中でいくつかの節目というものがあります。今日はその節目の一つなのです。次へのステップの節目なのです。中学校を卒業したという日の意味を、心の中に刻み込んで下さい。

人生は節目があるからこそ、次の成長があるのです。今日を境に、みなさんは新たなスタートをします。人生これからです。勇気と自信を持って、すばらしい人生を歩んでほしいです。

次に書かれている番号は何でしょうか。この番号はあなただけの番号です。

〇〇中学校の第1回卒業生からずつと繋がっている番号なのです。〇〇中学校の卒業生は一万人以上いるのです。そしてあなたは〇〇中学校のよき伝統を受け継いでいるのです。あなただけの番号、あなたは〇〇中学校の伝統の中にいるのです。

最後に、私の名前があります。私からの最後のメッセージがこの卒業証書でもあります。

最後にもう一つ、お伝えします。忘れないでほしい最後の最後のメッセージです。手のひらを見てください。小指、薬指、中指、人差し指、親指ですが、手のひらを広げ、薬指・中指・人差し指を曲げてください。小指と親指が残りました。

小指はみなさんです。親指は、みなさんの親や担任、親せきの方など、みなさんの周りにいる人たちです。そつと小指と親指を近づけてください。親指は自然と小指の方を向きます。

あなたがどこを見ているときでも、あなたの親や担任、多くの人たちがあなたを見守っているのです。

これから、辛いこと、寂しいこと、苦しいことがあった時、歯をくいしばり、手を握りしめ、そつと小指と親指を立ててみてください。どんなときでもあなたは一人ではないのです。必ず誰かがあなたを温かく見守っています。

すばらしい生徒に出会えて、幸せでした。ありがとうございます。（おわり）

## 熊本の名校長 最後の授業

私が考える教育の究極の目的は「親に感謝、親を大切にすること」です。

高校生の多くはいままで自分一人の力で生きてきたように思っている。親が苦労して育ててくれたことを知らないんです。これは天草東高時代から継続して行ったことですが、このことを教えるのに一番ふさわしい機会として、私は卒業式の日を選びました。

その後、三年生と保護者を全員視聴覚室に集めて、最後の授業をします。そのためにはまず形から整えなくちゃいかんということ、後ろに立っている保護者を生徒の席に座らせ、生徒をその横に正座させる。そして全員に目を瞑らせてからこう話を切り出します。

「いままで、お父さん、お母さんにいろんなことをしてもらったり、心配をかけたかもしれないだろう。それを思い出してみろ。交通事故に遭って入院した者もいれば、親子喧嘩をしたり、こんな飯は食えんとお母さんの弁当に文句を言った者もおる……」

そういう話をしていくうちに涙を流す者が出てきます。「おまえたちを高校へ行かせるために、ご両親は一所懸命働いて、その金ばたくさん使いなさったぞ。そういうことを考えたことがあったか。学校の先生にお世話になりましたと言っ前に、まず親に感謝しろ」

そして「心の底から親に迷惑を掛けた、苦労を掛けたと思う者は、いま、お父さんお母さんが隣におられるから、その手ば握ってみろ」と言うわけです。

すると二人、二人と繋いでいって、最後には全員が手を繋ぐ。

私はそれを確認した上で、こう声を張り上げます。「その手がねえ！十八年間おまえたちを育ててきた手だ。分かるか。……親の手をね、これまで握ったことがあったか？ おまえたちが生まれた頃は、柔らかい手をしておられた。

いま、ゴツゴツとした手をしておられるのは、おまえたちを育てるために大変な苦労してこられたからたい。それを忘れるな」

その上でさらに「十八年間振り返って、親に本当にすまんかった、心から感謝すると思う者は、いま一度強く手を握れ」と言うので、あちこちから嗚咽が聞こえてくる。

私は、「よし、目を開けろ。分かったや？ 私が教えたかったのはここたい。親に感謝、親を大切に授業、終わり」と言っ部屋を出ていく。振り返ると親と子が抱き合っって涙を流しているんです。

（おわり）

出典・月刊誌『致知』2011年1月号特集「盛衰の原理」。次々と教育現場の改革を図ってきた熊本の名校長・大畑誠也氏（九州ルーテル学院大学客員教授）のお話。